仏名草子集

〔夫婦宗論他〕

朝倉治彦校

古典文庫

朝倉治彦校

仙花草子集

〔夫婦宗論他〕

古典文庫

古典文庫第二二六冊 ©

昭和四十一年五月十五日　印刷発行　（非売品）

校者　朝倉治彦

発行者　吉田幸一

東京都板橋区熊野町三四

印刷者　帝都印刷製本株式会社

仮名草子集
（夫婦宗論他）

発行所　東京都（王子局区内）北区西ケ原町三ノ三四　古典文庫
電（九一一九）二七一七
振替口座東京一四五九七番

目次

凡例……二
夫婦宗論物語　寛永板……五
　寛文九年板……二三
解題……一九三
妙正物語（寛文二年刊）……五一
解題……二〇〇
見ぬ京物語（万治二年刊）……二一一
解題……二一〇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

凡　例

一、本書は、教義問答体の仮名草子三篇、すなはち、夫婦宗論物語・妙正物語・見ぬ京物語を翻刻した。

一、夫婦宗論物語は、寛永板を底本として、これに明暦板を校合した校本と、寛文板との二種を重出した。校合は平仮名、漢字、仮名の用字の相違まで厳密にはせず、異同を六号活字で右傍に註記し、一方の本文に該当文なきは・を以て示し、異同と振仮名との混同のおそれあるは、振仮名を略して別に註した。

一、翻刻にあたつては、できるだけ原形をこはさぬようつとめたが、その方針は概略次の如くである。

イ、文字は通行の文字にかへた。

ロ、誤字、脱字、仮名遣ひの誤りなども原本通りとし、（マヽ）或は（…カ）と傍註した。

ハ、原本の句読点はそのまゝにして、私に句読点は施さなかつた。

ニ、原本に見られる振仮名は、読み誤りのおそれあるものは残して、他は省いた。

ホ、和歌は別行、二字下げに統一した。

ヘ、私に改行を多く作つた。

ト、丁移りは「」を以て示し、丁数・表裏を註した。挿絵は〔絵〕の如く示し、丁数・表裏を註すること同様である。

一、巻末に書誌を附した。

一、多くの図書館・文庫は関係文献の閲覧利用につき多大の便宜をはかつて下されたる。深謝申しあげる。

昭和四十年十月

朝倉治彦

夫婦宗論物語

（寛永板。明暦板校合）

夫婦宗論物語

それしやくそん。御入めつ。すでに後五。百さいにおよび。じそんみろくの出世。未とをしといへとも。仏法を尋ぬるに親なり。寛相もとむれは。たゝ。かんちうのちりなり。

其ゆへ如何となれは。都辺土に。ひんなるかせ」一オ人壱人御座（振仮名「おハし）」けるか。つら〳〵世間をくハんするに。ういむじやうハ。きせんをもゑらハす。三界ハ。うゐのすミかなり。それ経にも。独生独死独去独来は。世のならひ。ひとりきてひとりさるハ無常のおきて。のかれかたし此心を哥には」一ウ

敷嶋にあそふ手ずしのいときれてころふすかたハもとのかミきれ

とよみ。うゐのはうやうハ。がんぜんの境界うたがふべからす。でんくわうの命。草葉の露のあしたを。まつがごとし。かなしきかなや。ふようの身。かるかゆへに古人の云。松樹千年終是一花一日自為レ栄。まつも千年を。ふるといへとも終にはくちぬ。あさがほのはなのゆうへを。またざるに似たり。五うんハかりのとも。りよきやくのぬし。六しゆをさして中うに。生をもとむ。ゆうこんあたゝかにして。ひとりゆきか」二ウハれる。姿さんたくにのこり。屋ぐわひにほねをさらす。人中天上のけらく。夢のうちにしてまほろしのごとし。八くのかなしミたちまち来り。五すいのかなしミすみやかにいたる。地獄きちくのくハ。八ねつのくをうけ。三界けごんのうれへ」三オあり。くろがねのほこほねをくたき。あるひハたうりんは

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

たへをさく。まなこにはごくそつ。あはうの。いかれる姿を見て。耳にはらせつけうくハんのこゑをきく。くわけつだうのくるしミを。うくる事ひまなし。おく〳〵万がうにも出がたかりし」三ウ身の。たま〳〵人間に生(むま)れきて。なんぞ。いたつらに生(しやう)をむなしくすごさんや。じやうらくがしやうにたふらかされてこりす。さんづのこきやうにかへりなんとす。おろかなるかなや。一たんのミやうりによつて。なかく四しゆのくげんを。う」四オけん事を。つたなきかなや此たひしやうじのくかいを出すハ。みらいもなにとしてか。ぼたいのひがんにいたるらん。かるがゆへに三界六道をいとひて。やうらくのもんにいてんとする。

されは彼夫婦もろともに。げんせのひんくをは。ゆめうつゝに」四ウ

もかなしミたま(まず)ハす。たゝながき世のやミを。こゝろうくおもひ。後世菩提をいのる。是そまことに(の)善男子。善女人ともいふへし。されどもきこんまち〳〵にして。そのみちひとつにあらす。一人の子をは。ぜんしうの弟子にたてまつり。男は念仏三」五オまいの。道場(だうでう)におもむき。一念弥陀仏そくめつ無量罪(マヽ)現世無比楽後生(しやう)・・清(しやう)・・浄土(ぐ)といのる　女は又日蓮上人のながれをくみて。法花妙典(でん)をいたゞき五のまきだいばほんに。深(ぢん)達罪福相遍照於(お)(振仮名「おう」)十方微(ミ)妙浄法身(ほつしん)具相三十二・・・・・・・・・・と祈る
以八十種好用荘厳ほつしん

されは」五ウ　有時(ある)。女房男(おつと)に教化しけるハ。かねてより夫婦は二世とごしたれは。今生をも後世をも。おなし道に入てこそ・(は)。夫婦のかいもあるへけれ。とをき阿弥陀をたのまんよりも。ちかき御経をいたゞ

き。ともに仏果成就したまへやと教化す。

男」六オ 此よし聞て。やさしくも教化し給ふものかな。本より我はぐちにして。遠き阿弥陀のいはれをも。ちかき御経のいとくをもしらす。たゝ弥陀の他力本願は身をまかせ。至誠深心廻向発願と祈る。より外他なしといふ。

女聞云本より。女房ハむねにちゑ有て心に」六ウ知恵なし。男ハ胸に知恵なくして。心にちゑふかしといふハ。いたづら事也御身男子なれとも。仏法をはいまだ。しり給ハすや。それ法花経は最第一三世の諸仏出世の本懐。一切衆生成仏のちきたうなり。第一の本に十方仏土中唯有一乗法無二亦」七オ 無三除仏方便説。此もんのこゝろハ十方の仏土のなかに。たゝ一乗の法の味有て。二つもなく三つもなく。仏法

便の説をは。除くへきとときたまふに。御身いまたしり給ハすやと云
男此よしうち聞て。何を以方便の説。いかなるを以一乗の法と問」七ウ
女聞て釈尊四十余年に説給ひし。己前の経ハ方便の説也。おハり八年
に説たまひし。大乗の法花・こそたゝ一乗の法と云・・・・・・・
男此由聞てさてハ仏も妄語おハせけるよと云
女聞ていかなるを以妄語とせん
男答て云く始四十余年にとき給」八オし。花厳阿含方等般若いつれも
衆生成仏とこそ説給ひしに。何そ法花経に至て。其期をやぶり。他衆
成仏しがたしと云こそふしんなりといふ
女此よしうち聞てそれ釈尊出世のはじめには。衆生仏をもしらす。自
利・の法をも・・え」八ウがたし。然るに仏。種〻に方便のせつをのへ。

じかい多法の。ちやうじゆを。もよほし。時節に応して。説給へは以前の経は。足代(あしろ)のごとし。其外過去おうがう(わうご)より己後。しやは八千度の間。種〻の行。種〻の法。有時ハ鳩のはかりにしゝむらをかけ。諸行無常是」九オ 生滅法生滅〻己寂滅為楽に命をかへ。衆生をさいど。し給ふ。三界のあるじを背(そむき)。遠き西方極楽の阿弥陀をたのまんこそ。たゝ(まつたく)地獄のかまこげ。よと云(そやせうじやうのきのまへにてハ御ねんぶつのお十ねんなとゝてありかたそふニの給へ大せうのきのまへにてハあさ〳〵しくことおかしくまことにいたハしくまたぐちあんどんにおもハれけるそや

男(このよし)聞て釈尊を三界のあるじとのたまふ。せうこハいかにと問女答云第二の巻に」九ウ 今此(こんし)三界皆是我有其中衆生悉是吾子。此もん

の心ハ。今此三界ハ皆是我たもてり。其中の衆生こと〳〵く是。我子なりと説たまう。かつうハ主命をそむき。かつうハ父母の恩を背にもにたり。たゝ此経をいたゝき給へかしと教化す。

さて男此由」十オ聞て御法聞言語道断しゆしやうにゐ。さりながら我等がたのミ奉る弥陀のせいくハんは。釈迦にはいかておとるへき。五劫思惟の後南無阿弥陀仏と名をよはれ。すでに正覚を取たまふ処に。三界の衆生ぐちあんとんにして。地獄におつる事」十ウふる雨のごとく。つら〳〵是を見給にあはれなるかな。我仏果をえたりといふとも。人間をたすけすは。そのかいあるましとて。又五劫思惟として。衆生のくるしみにかハり給ふ。爰を以大通知情仏十却坐道場仏法不現前不得成仏道と是をいふ」十一オ時に。十方がうがしやの仏あらハれ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong